

教育と日本の将来：将来のあるべき姿

現 状

必要なスキル

AI元年（2017年）と言われ、シンギュラリティ（技術的特異点）が21世紀中に来るといわれている

AIを始めとしたICT技術の進化により、将来求められる人材のスキルが変化してきている。

人間の役割

少子高齢化が進むことで、人間が担う仕事の種類、役割が変わっていく。

一方で、日本の子ども・若者の課題も浮かび上がる（読解力の不足など）

情報活用

情報の分断により、子どもの成長情報が適正に引き継がれない

将 来

「東ロボ君」に象徴される、AIでも代替可能な「知識を問う」試験は意味を持たなくなる？
（でも、考える基本に知識は必要ですが）
AIで代替できない「覚える」学習から「考える」学習へ

AIや機械学習を活用した働き方への変化
人間が担うべき労働への対応訓練
失敗を恐れないチャレンジ精神
人間同士の的確なコミュニケーション

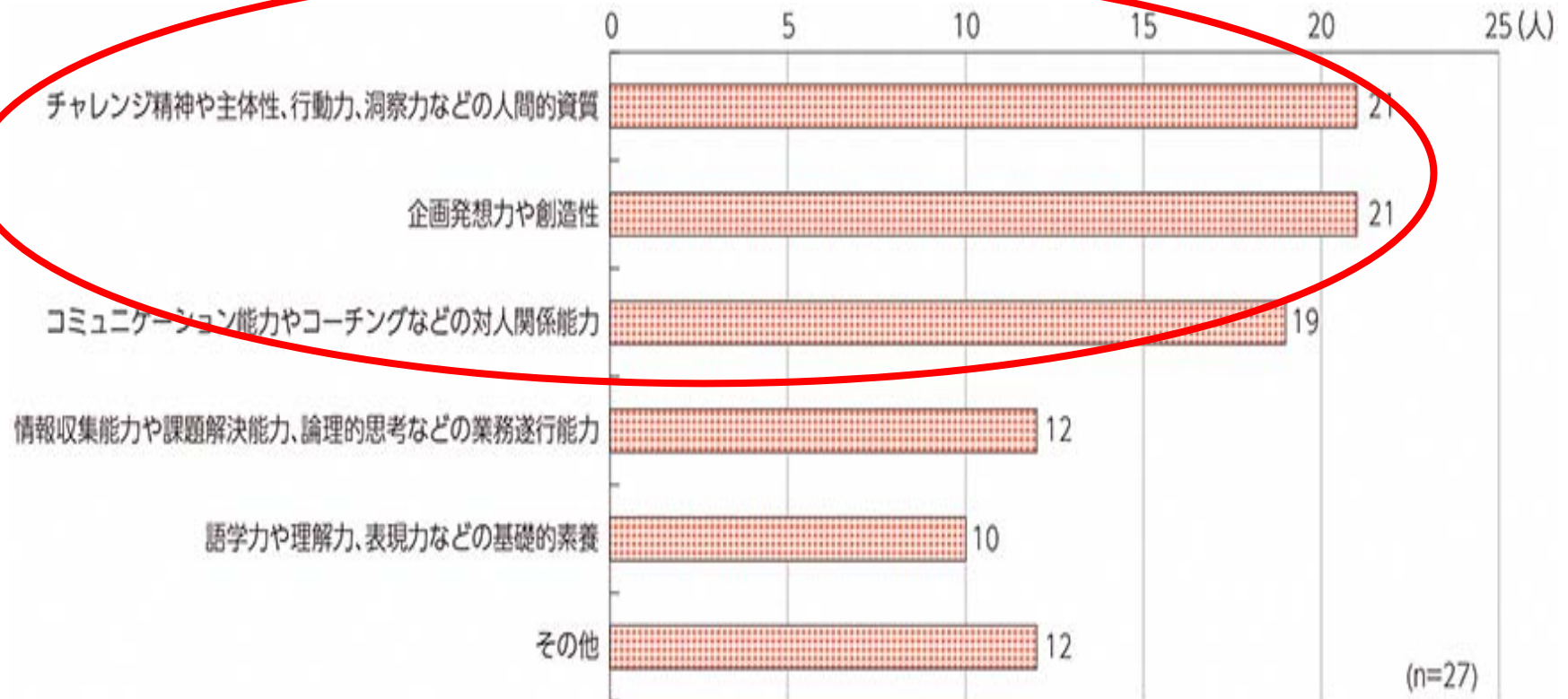
個々の子どもの成長に合わせたきめ細かな教育の実現

そのために、個々の子どもの育ちを助けるために必要なデータの共有と、教育をいかに行うか。

- ①「考える学習」へのシフト
- ②コミュニケーション能力、チャレンジ精神など人間的な資質の向上
- ③進学に伴う情報の分断の防止

AIの利用が一般化する時代に必要な能力

人工知能 (AI) の活用が一般化する時代に求められる能力として、特に重要だと考えるものは何かを有識者に対して尋ねたところ、「業務遂行能力」や「基礎的素養」よりも、「**チャレンジ精神や主体性、行動力、洞察力などの人間的資質**」や「**企画発想力や創造性**」を挙げる人が多かった。



コミュニケーション能力、チャレンジ精神など人間的資質の向上

考える学習へのシフト

- ・ 失敗を許さない
- ・ 点数で評価
- ・ 皆と同じことが正しい
- ・ 普段から短文でやり取り、SNSの多用



- ・ 失敗しないようにマニュアルどおり
- ・ 知識量が多いことが評価される
- ・ 一人だけ違うと恥ずかしい、いじめられる
- ・ 文章、表情、感情が読めない

評価軸の変換

- ・ 失敗から学ぶ姿勢を評価する
- ・ 「チャレンジすること」を評価する
- ・ 知識に体験を重ね、そこから得られる知恵とする
- ・ 個々の違いのもたらす豊かな多様性を認識する
- ・ 読解力と思考力は密接な関係にあるため、特に重点的に訓練していく

進学に伴う情報の分断の防止

